

町田又一
議員

☆室戸ジオパークの
世界認定について

問：拠点施設の整備に今後どう取り組む予定か。

答：拠点施設として、平成二十二年六月に重要なポイントである室戸岬にインフォメーションセンターを設置し、訪れる観光客へガイドなどのサービスを提供する拠点として活動してきた。そして室戸を訪れる人に室戸ジオパークの魅力を知ってもらい、その見所などを案内できるようにと、平成二十三年七月に鯨館内にピジターセンターを設置している。今後については室戸の自然、文化、産業や人物など室戸ジオパークの魅力や丸ごと体感できるように多目的な拠点施設を整備し、多くの人がいつでも楽しめる施設の整備を進めていく。

問：観光を産業にする戦略として何か考えているか。

答：観光における経済効果に關しては、一つには室戸を訪れた人にできるだけ長く滞在してもらって、多くの経済効果を生み出すことができるのではと考えている。そのためには観光ガイドの育成や体験型観光メニューの開発、拠点施設の充実、地域の食材を利用した食事メニューの工夫や、ジオ関連商品の開発などを行い、多様な受け皿を設ける必要があると考える。そして宿泊対策に關しても宿泊施設の充実やサービスの向上、施設の誘致や民泊の推進など総合的につなげていく必要がある。また、観光客へのニーズ調査も行い、産業振興に活かすよう検討していく。

問：市民のジオへの参加をどう呼びかけるのか。
答：観光ガイドやジオパークマスターや各施設の職員の方、応援イベントやサイトの清掃をしてくれた大勢の皆さんに今後も協力を求めたい。これまで以上に地域での懇談会やイベントの開催、ガイドの養成などに取り組み。こうしたことが行

☆南海地震対策について

問：中山間地や台地へのヘリポートの設置の見通しについて聞く。

答：現在、本市に設置されているヘリポートは室戸消防署及び室戸岬町高岡のふれあい公園の二箇所であり、これに現在整備を進めている防災公園内のヘリポートを加えて本年度末には三箇所となる。大規模な災害やそれに伴う陸路の途絶等を考えたとき、防災ヘリやドクターヘリの果たす役割は非常に大きな支えとなる。したがって離発着が可能な場所を複数確保しておくことは、大変重要である。中山間地や台地等における離発着場の確保について、県や関係機関と協議して箇所数を増やすことに取り組んでいく。

問：津波避難タワー及び主要各所への海抜表示板の設置を急げ。
答：避難場所までの距離や高

政と市民が一体となった新たな室戸のまちづくりとなる。

低差、避難に掛かる時間などを検証しながら、どうしても有効な避難場所がないという地区については、津波避難タワーの建設について検討する必要がある。南海地震による津波などを考えたとき、自分達が暮らしている地域の地盤の高さを知っておくことは大切だ。国土交通省の取組と連携しながら海抜表示に取り組み。

久保 八太雄
議員

☆防災対策の充実について
一、吉良川中学校の移転について

問：吉良川中学校は耐震補強工事によって屋上を一時避難場所としているが、現在の津波被害想定では高さが不十分である。安全性の高い吉良川小学校へ移転する考えはないか。また、小学校の窓ガラスの安全対策はどうか。

答：吉良川中学校は津波襲来時には標高が低いため、津

二、吉良川保育所周辺の
避難道整備について

問：吉良川小学校近くにある吉良川保育所へ吉良川第一保育所を統合し、保育所までの通園路を新設、周辺整備し、保小中学校の教育エリアとして構築する考えはないか。

答：将来、吉良川保育所と吉良川第一保育所が一箇所に統合されるといふ事になれば、通園する児童数も多く交通量の増加が考えられ、防災面からも不十分であることから、新たな道路整備を検討する。教育エリアの構築は、児童生徒の減少もあり、学校行事等合同開催